

第2回(平成17年度)
ストーリーケアについての調査報告書

平成 17 年 9 月

社団法人 日本オストミー協会

平成17年度ストーマケアについての調査報告書

- 目 次 -

はじめに	1
アンケート結果の概要	2
. 基本調査結果	
1. 会員オストメイトの属性	2
(1) 性別	2
(2) ストーマ種類別	2
(3) 年齢構成	3
(4) 手術後の経過年数	3
2. 身体障害者福祉法関連事項	3
(1) 身体障害者手帳給付状況	3
(2) 身体障害者手帳の級数	4
(3) ストーマ用装具交付券の給付状況	4
(4) 一ヶ月にかかるストーマ用装具の経費	4
(5) 交付券での不足の有無	5
3. ストーマ用装具関連事項	7
(1) ストーマ用装具の不具合経験	7
(2) ストーマ用装具の不具合発生部位	8
(3) 使用しているパウチの種類	8
(4) 使用しているストーマ用装具の満足度	9
(5) パウチ(袋)の交換頻度	9
(6) ツーピース型ストーマ用装具の面板交換頻度	10
(7) ストーマ用装具の変更	11
(8) ストーマ用装具に不満で変更した理由	11
4. 日常生活	12
(1) 外出の不安とストーマ用装具	12
(2) ストーマケアに関する相談相手	12
(3) オストメイトであることの周囲の理解	13
(4) インターネットの利用	15
. 考察	
1. オストメイトの高齢化と介護	16
2. 障害者認定について	17
3. オストメイトであることの周囲の理解	18

参 考：支部別標本数及び回収数

平成17年度ストーマケアについての調査票

平成17年度ストーマケアについての調査報告書

はじめに

この調査報告書は、当協会の会員を対象にストーマケアの実態について、2年ごとにアンケート調査を実施し取りまとめたものである。

今回の調査は平成15年度の第1回調査に続く第2回調査で、調査項目の設計に当たっては、従来から実施してきた基本項目に加え、ストーマ用装具やそれに伴うストーマケアについて幅広く設定した。

また、サンプルの選定は、前回は会員の中から単純に無作為に抽出したが、今回は会員の年齢階層別とその分布割合に応じてサンプル数を割り当てた後に無作為に抽出した。サンプルの抽出及び調査票の配布と回収は本部において実施した。調査項目の検討及び調査結果の解析は福祉部において行った。

なお、この調査事業は、プリストル・マイヤーズ スクイブ(有)コンバテック事業部のご支援により実施し、また、質問の設定に当たっては、同社の五島本也部長様、大窪民子様のご協力を頂きましたことを記し、ここに深甚の謝意を表すものであります。

調査対象(サンプル)と調査手法

* サンプル数	1,003 票
* 回収数	619 票
* 回収率	61.7 %
* サンプル抽出法	協会の全支部(約11,000名)を対象に無作為抽出
* 質問	質問票によるアンケート方式
* 集計	株式会社 エクサットに委託

調査事項<調査質問票は巻末に掲載>

- * サンプル属性(性別、スト-マ種類、満年齢、スト-マを造設した年、支部名)
- * 身体障害者福祉法関連事項
- * ストーマ用装具関連事項
- * 日常生活事項

調査期間 平成17年7月1日~7月15日

用語

- * 本報告書では、直腸・結腸人工肛門を「コロストミー」、回腸人工肛門を「イレオストミー」、人工膀胱を「ウロストミー」、人工肛門・人工膀胱を「人肛・人膀」と記述する。

アンケート結果の概要

基本調査結果

1. 会員オストメイトの属性

(1) 性別

調査の対象とした男性と女性の比率は前回調査とほぼ同じ結果となっている。(表1)

表1 アンケート回答者の性別(無回答を除く)

【単位：%】

	調査年 (平成)	サンプル 件数	回収率	男性	女性	備考
今回調査	17年	1,003	61.7	63.6	36.4	第2回ケア調査
前回調査	15年	1,000	65.0	63.7	36.3	第1回ケア調査

(2) ストーマ種類別

今回の調査では無回答が少なく、コロストミー、ウロストミー、イレオストミーの割合が増加している。人肛・人膀の割合には増減がなかった。(表2)

表2 ストーマ別割合

【単位：%】

ストーマの種類	今回(平成17年)	前回(平成15年)
コロストミー	70.4	62.5
イレオストミー	6.3	4.2
ウロストミー	17.1	14.3
人肛・人膀	4.9	4.9
無回答	1.3	14.2

術後3年未満のコロストミーとウロストミーの比率が2：1となっているが、術後3年以降ではコロストミーの割合が70%前後である。ウロストミーは徐々に減少し18.4%から14.3%になっている。

イレオストミーは、6～5%で推移しているが術後20年以上で10%になっている。人肛・人膀では5%前後で推移している。(表3)

表3 ストーマの種類と術後経過年数

【単位：%】

	コロストミー	イレオストミー	ウロストミー	人肛・人膀	無回答
3年未満	66.7	0	33.3	0	0
3～5年未満	69.4	6.1	18.4	6.1	0
5～10年未満	69.0	6.4	17.6	5.6	1.4
10～20年未満	73.8	5.1	15.9	4.0	1.2
20年以上	68.6	10.0	14.3	5.7	1.4

(3) 年齢構成

年齢層別に見ると、今回は前回同様 70 歳代の割合が最も多く、前回よりも 7%程度多い。80 歳以上も前回より 7%以上多く占めおり、全体にさらに高年齢者の割合が多くなっている。(表 4)

表 4 年齢構成

【単位：%】

年齢階層	40 未満	50 未満	60 未満	65 未満	70 未満	75 未満	80 未満	80 以上	無回答
今回 (平成 17)	0.2	1.4	8.4	9.2	15.7	22.3	22.3	19.7	0.8
				24.9		44.6			
前回 (平成 15)	0.8	2.5	11.8	12.0	17.1	17.7	20.0	12.3	5.8
				29.1		37.7			

平均年齢は 71.8 歳で前回より 2.7 歳高く、男性の平均年齢は 72.4 歳、女性は 70.6 歳で、前回の調査と比べるといずれも 2.5 歳高い。(表 5)

表 5 平均年齢

【単位：%】

	全 体	男	女
今回(平成 17 年)	71.8	72.4	70.6
前回(平成 15 年)	69.1	69.9	68.1

(4) 手術後の経過年数

ストーマ造設年から手術後の経過年数を計算し術後経過年数を求めた。前年に比べて、3 年未満の割合が非常に少なく、10-20 年の割合がさらに増加している。(表 6)

表 6 回答者の手術後の経過年数

【単位：%】

	3 年 未満	3~ 5 年未満	5~ 10 年未満	10~ 20 年未満	20 年 以上	無回答
今 回 (平成 17 年)	4.4	7.9	22.9	40.7	22.6	1.5
前 回 (平成 15 年)	11.7	9.5	21.4	36.3	16.2	4.9

2. 身体障害者福祉法関連事項

身体障害者福祉法のオストメイトに対する適用状況とその生活への影響等を調査し、現行助成措置の問題点を把握し、今後の改善運動に向けて裏付けとなるデータを探る事とした。

(1) 身体障害者手帳給付状況

平成 15 年度にコロストミーが身体障害者として即時認定され、手帳が交付されることになったので、前回調査に比べて貰っている人の割合が 2.4%増加し、98.7%となってほとんどの人が交付を受けている。(表 7)

表 7 身体障害者手帳の交付状況

【単位：%】

	手 帳 を 貰っている	手 帳 を 貰っていない	無 回 答
今 回 (平成 17 年)	98.7	1.3	0
前 回 (平成 15 年)	96.3	3.5	0.2

(2) 身体障害者手帳の級数

前回の調査では、手帳をもらっている人は全体で、4級が84.3%、3級が8.0%、2級が1.5%、1級が1.4%であったが、今回はすべての級で前回よりその割合が少し大きくなっている。これは無回答の割合が前回の4.8%に比べて1.1%と少なくなっている影響であるが、その中でも1、2級の増加率が高いようである。

ストーマの種類別で見ても、3級以上の取得が増加している。ウロストミーでは前回3級であったものが、1、2級に、また人肛・人膀では4級のものが3級以上に、特に3級になった割合が大きい。

これは、オストメイトの障害等級の認定基準が平成15年度より明確化されたことによると思われる。(表8)

表8 身体障害者手帳の級数 【単位：%】

	4 級	3 級	2 級	1 級	無回答
全 体	85.1	8.7	2.3	2.8	1.1
コ ロ ス ト ミ ー	88.7	6.5	1.6	2.3	0.9
イ レ オ ス ト ミ ー	78.9	13.2	2.6	5.3	0
ウ ロ ス ト ミ ー	91.5	1.0	2.8	2.8	1.9
人 肛 ・ 人 膀	23.3	63.3	6.7	6.7	0

(3) ストーマ用装具交付券の給付状況

ストーマ用装具の交付券を「貰っている」人の比率は85%以上となっている。協会ではこの調査を平成8年以来実施しているが、「貰っている」人の割合が平成8年の62.8%より年々増加し平成14年には80.6%に達した。

しかし、平成15年の前回調査では74.3%と低下したが、今回調査では85.6%とこれまでの増加傾向を継続している結果を示した。(表9)

表9 ストーマ用装具交付券の給付状況 【単位：%】

	貰っている	貰っていない	無回答
今 回 (平成17年)	85.6	13.7	0.7
前 回 (平成15年)	74.3	21.2	4.5

交付券の受給状況は、所得制限以下で全額貰っている人が全体の28%で、72%の人が所得制限に抵触している。抵触する人の中で市町村が補助を行って全額支給される人が11.6%となっているので、国と市町村の補助金を併せて全額を支給されている人は全体の約40%となっている。全く貰えない人は8%強となっている。よくわからないと答えた人が約9%に達していることに注目したい。(表10)

(4) 一ヶ月にかかるストーマ用装具の経費

ストーマ用装具用品全体に一ヶ月当たりどのくらい生活上の負担を強いられているかを見ると、経費が「かかる」と答えた人は、前回の87.2%に対し今回も86.7%とほぼ横ばいとなっており、金額は5千円以上10千円未満と1万円以上1万5千円未満を併せると全体の57%となり、前回の56%とほぼ同じになっている。

「全くかからない」と答えた人が8.6%になっているが、交付券で間に合い自己負担が無い人が誤って記入したものと思われる。

ストーマの種類別では、コロストミー、イレオストミー、ウロストミー、人肛・人勝の順に経費がかかり、一ヶ月あたりの平均経費を算出するとコロストミーで9,207円、イレオストミーで10,263円、ウロストミーで11,887円、人肛・人勝で17,759円となっている。
(表11)

表10 交付券補助金額の受給状況

【単位：％】

交付券補助金の受給状況	所得額が低いので 全額もらっている	所得制限のため 全くもらえない	所得制限にかかり 一部しかもらえない	所得制限にかかるが、 補助で全額もらっている	所得制限にかかるが、 補助で一部もらっている	よくわからない
ストーマの種類						
全体	28.0	8.3	16.6	11.6	26.7	8.8
コロストミー	24.9	9.9	15.8	10.6	30.6	8.2
イレオストミー	27.1	5.4	18.9	21.6	13.5	13.5
ウロストミー	37.6	3.0	19.8	10.9	18.8	9.9
人肛・人勝	38.0	10.3	10.3	13.8	20.7	6.9

表11 ストーマ用装具に要する1ヶ月あたりの経費

【単位：％】

ストーマの種類	全体	コロストミー	イレオストミー	ウロストミー	人肛・人勝	
全くかからない	8.6	8.7	7.7	8.5	6.7	
経費がかかる	86.7	86.0	89.7	87.7	90.0	
一ヶ月当りの経費	5千円未満	12.7	15.1	7.7	8.5	3.3
	5～10千円未満	30.2	33.7	38.4	17.9	10.0
	10～15千円未満	27.0	23.6	28.2	43.4	16.7
	15～20千円未満	7.6	7.8	5.1	5.7	10.0
	20～25千円未満	4.7	3.0	7.7	2.8	33.3
	25千円以上	4.5	2.8	2.6	9.4	16.7
無回答	4.7	5.3	2.6	3.8	3.3	
必要経費の平均値	10,174	9,207	10,263	11,887	17,759	

(5) 交付券での不足の有無

ストーマ用装具の費用がかかるとした人に対し、自治体から交付されるストーマ用装具交付券で経費が間に合っているか否かを聞いた。

表12 交付券では不足するストーマ用装具にかかる経費

【単位：％】

		全 体	コ ロ ス ト ミ ー	イ レ オ ス ト ミ ー	ウ ロ ス ト ミ ー	人 肛 ・ 人 勝
間に合っている		28.5	30.6	25.9	26.1	16.7
間に合っていない		71.5	69.4	74.1	73.9	83.3
一ヶ月当りの不足する額	2 千 円 未 満	12.4	13.0	7.4	13.6	8.3
	2~3 千円未満	13.1	12.4	11.1	17.0	-
	3~4 千円未満	9.1	9.7	11.1	5.7	12.5
	4~6 千円未満	13.5	12.7	7.4	17.1	20.8
	6~8 千円未満	4.2	3.7	11.1	3.4	-
	8~10 千円未満	6.1	6.1	7.4	5.7	8.3
	10~15 千円未満	9.5	9.4	11.1	5.7	25.0
	15 千 円 以 上	3.6	2.4	7.5	5.7	8.4
不 足 額 の 平 均 値		4,194	3,876	5,426	4,210	7,104

交付券のみでは「間に合わない」とする人が全体の71.5%と7割を超えている。

ストーマ別に見ると、コロストミーでは「間に合わない」人が69.4%に対して、イレオストミーとウロストミーでは約74%となっており、人肛・人勝では83.9%の人が「間に合わない」としている。(表12)

不足する金額では、3千円未満が25.5%、3~6千円が22.6%となっている。ストーマの種類別に不足額の平均値を見ると、人肛・人勝が7,104円、イレオストミーが5,426円、ウロストミーが4,210円、コロストミーが3,876円の不足となっている。

ストーマ用装具に要する経費の推定を性別、ストーマ種別、術後経過年数別、年齢層別にまとめた。

男性よりも女性が、術後年齢が高いほど、高年齢階層ほど交付券だけでは不足する額が大きくなっていることがわかる。

表13 ストーマ用装具に要する経費の推定 【単位：%】

ストーマ用装具にかかる経費(1ヶ月)		1ヶ月に必要な額	交付券だけでは不足する額
全 体		10,174	4,194
性別	男	10,080	3,944
	女	10,293	4,598
ストーマ	コ ロ ス ト ミ ー	9,207	3,876
	イ レ オ ス ト ミ ー	10,263	5,426
	ウ ロ ス ト ミ ー	11,887	4,210
	人 肛 ・ 人 勝	17,759	7,104
術後年数	3 年 未 満	10,865	3,413
	3 ~ 5 年 未 満	9,946	3,768
	5 ~ 10 年 未 満	10,127	3,652
	10 ~ 20 年 未 満	10,105	4,298
	20 年 以 上	10,094	4,903
年 齢 階 層	40 歳 未 満	7,500	7,000
	40 ~ 49 歳	8,056	2,917
	50 ~ 59 歳	11,324	5,442
	60 ~ 64 歳	10,175	3,933
	65 ~ 69 歳	10,851	4,019
	70 ~ 74 歳	9,924	3,611
	75 ~ 80 歳	10,439	4,403
	80 歳 以 上	9,167	4,404

また、60歳以下の年齢階層、すなわち現役世代では50～60歳が最も経費がかかっており、収入が多く自己負担額が大きくなっている。(40歳以下のデータはサンプル数が少ない)
(表13)

3. ストーマ用装具関連事項

(1) ストーマ用装具の不具合経験

ストーマ用装具に関する不具合を経験している人は7割を超えており、そのうち56%の人が1ヶ月に1回以上経験している。

1週間に1回以上経験している人は26%以上となっている。(表14)

1ヶ月以内の経験度で見るとイレオストミーが最も経験度が高く、コロストミーとウロストミーは同程度、人肛・人膀が最も低い。人肛・人膀はストーマ用装具に関するケアが最も複雑であるだけに注意深くストーマケアを行っているためと思われる。術後経過年数で見ると、やはり3年未満の人の不具合経験度が高く、5～10年の人が最も低い。10年以上では加齢や体型の変化なども影響して不具合の経験度が高くなっている。(表15)

表14 ストーマ用装具の不具合経験 【単位：%】

不 具 合 経 験	不具合経験者の割合	
な し	28.7	
あ り	71.3	
	1週間に数回	13.2
	1週間に1回	13.5
	1ヶ月に1回	29.3
	半年間に1回	31.0
1年間に1回	13.0	

表15 ストーマ種別及び術後経過年数とストーマ用装具の不具合経験 【単位：%】

ストーマ用装具の不具合経験頻度		1週間に数回	1週間に1回	1ヶ月に1回	半年間に1回	1年間に1回
ストーマの種類	コロストミー	11.2	14.2	30.4	31.1	13.1
	イレオストミー	35.5	12.9	16.1	29.0	6.5
	ウロストミー	11.0	11.0	32.8	31.5	13.7
	人 肛 ・ 人 膀	8.3	16.7	25.0	29.2	20.8
術後経過年数	3 年 未 満	20.0	5.0	45.0	20.0	10.0
	3 ～ 5 年 未 満	13.3	13.3	30.0	26.7	16.7
	5 ～ 10 年 未 満	7.5	8.6	29.0	37.7	17.2
	10 ～ 20 年 未 満	11.9	14.4	30.6	31.3	11.8
	20 年 以 上	18.3	19.3	24.7	28.0	9.7

(2) ストーマ用装具の不具合発生部位

ストーマ用装具の不具合の三大箇所は、パウチからの漏れ、パウチの溶着部の剥れ、皮膚保護剤の剥れで、ついでパウチとフランジの接合部となっている。ストーマの種別により各々の特徴があり、パウチに関する不具合は複数のパウチを装着する人肛・人膀が最も多く、イレオストミーは皮膚保護剤に関するトラブルが多い。(表16)

表16 ストーマ用装具の不具合発生部位 【単位：％】

ストーマ用装具の不具合発生部位		皮膚保護剤の剥れ	パウチからの漏れ	パウチの溶着部の剥れ	パウチとフランジの接合部	クリップの外れ	その他
全 体		37.9	44.2	42.5	17.7	9.1	11.7
ストーマの種類	コ ロ ス ト ミ ー	38.7	41.1	41.1	16.7	8.2	14.2
	イ レ オ ス ト ミ ー	64.5	45.2	35.5	16.1	16.1	6.5
	ウ ロ ス ト ミ ー	30.3	51.3	42.1	19.7	7.9	7.9
	人 肛 ・ 人 膀	20.0	60.0	60.0	24.0	12.0	4.0
術後経過年数	3 年 未 満	45.0	45.0	35.0	5.0	5.0	15.0
	3 ~ 5 年 未 満	30.0	43.3	40.0	26.7	6.7	16.7
	5 ~ 10 年 未 満	35.4	41.7	45.8	19.8	16.7	6.3
	10 ~ 20 年 未 満	39.3	42.3	40.5	23.2	6.5	11.3
	20 年 以 上	41.4	49.5	46.5	7.1	8.1	14.1

(3)使用中のパウチの種類

現在使用中のパウチは、人工肛門用としては下部開放型が圧倒的に多く、コロストミーでは6割弱の人が、イレオストミーでは4分の3以上の人を使用している。

人肛・人膀では6割以上の人下部開放型を使用している。

一方密閉式を使用している人はコロストミーが多く3割の人が用いている。(表17)

表17 使用中のパウチの種類 【単位：％】

使用中のパウチの種類	人工肛門用			人工膀胱用	
	下部開放型	密閉型	マジックテープ式下部開放型		
全 体	46.9	24.4	8.2	20.5	
ストーマの種類	コ ロ ス ト ミ ー	57.1	33.5	9.4	
	イ レ オ ス ト ミ ー	75.7	13.5	10.8	
	ウ ロ ス ト ミ ー				100.0
	人 肛 ・ 人 膀	37.5	10.4	10.0	41.7

(4) 使用中のストーマ用装具の満足度

現在使用中のパウチの満足度を尋ねたところ、8割以上の人々が満足していることがわかった。

ストーマの種別ではウロストミーおよびコロストミーの満足度が高く、レオストミー、人肛・人膀の満足度がやや低いことがわかる。

(表18)

表18 使用中のパウチの満足度 【単位：％】

	満 足	ほぼ満足	やや不満	不満足
全 体	22.6	60.6	15.3	1.5
コロストミー	22.0	61.9	14.9	1.2
イレオストミー	15.8	55.3	21.0	7.9
ウロストミー	30.5	56.2	12.4	0.9
人 肛 ・ 人 膀	13.8	62.1	24.1	-

表19 使用中のパウチの不満足な点

不満のある人にストーマ用装具のどの部分が問題があるかを尋ねた結果、剥がれや漏れ、かぶれ、臭いの漏れ、ガス抜き、価格などが上位を占めていることがわかった。

(表19)

不満足な点	回答数	不満足な点	回答数
剥がれやすい{もれる}	31	フランジ関連	8
皮膚のかぶれ	17	拡げて欲しい	7
価格が高い	16	不良品がある	6
漏れる	15	接着部	6
ガス抜き	15	夏には困る	6
パウチ関連	14	剥がれにくい点がある	5
臭いのもれ	13	その他	85

(5) パウチ(袋)の交換頻度

パウチの交換頻度はコロストミーが最も頻度が高く、次いで人肛・人膀、イレオストミー、ウロストミーの順に交換日数が長くなっている。(表20)

表20 パウチ(袋)の交換頻度 【単位：％】

	1日2回以上	1日1回	2日1回	3日1回	4日1回	5日1回	6日1回	1週間	それ以上	不使用	平均(日)
全 体	8.6	21.3	17.7	19.2	16.0	6.9	2.9	4.5	1.0	1.9	2.8
コロストミー	10.5	27.7	21.6	17.9	9.3	2.9	1.5	5.1	1.0	2.5	2.4
イレオストミー	5.3	15.8	21.0	23.7	21.0	7.9	-	-	5.3	-	3.1
ウロストミー	1.0	1.0	-	21.5	39.2	20.6	10.8	4.9	-	1.0	4.3
人 肛 ・ 人 膀	10.7	10.8	21.4	25.0	21.4	10.7	-	-	-	-	2.7

表21 ツーピース型ストーマ用装具の面板交換頻度 【単位：％】

		1 日 2 回 以 上	1 日 1 回	2 日 1 回	3 日 1 回	4 日 1 回	5 日 1 回	6 日 1 回	1 週 間	そ れ 以 上
今 回	夏 季	0.4	1.7	14.9	33.3	26.7	11.5	4.5	6.3	0.7
	他 の 季 節	0	0	3.9	20.5	34.2	20.1	12.8	6.4	2.1
H16 年	夏 季	0.7	2.3	12.4	29.3	22.2	16.6	7.5	8.3	0.7
	他 の 季 節	0.5	1.4	4.8	20.1	26.8	20.6	13.9	11.0	0.9

(6) ツーピース型ストーマ用装具の面板の交換頻度

皮膚保護剤を用いている面板の交換は、汗のかきやすい夏とその他の季節で異なるが、夏季は1日程度交換する日数が早くなる。これらの数値よりその平均値を求めた。(表21、22)

全体では夏期は交換日が早まり、ストーマの種類別ではイレオストミーが最も交換日数が短く、夏季は1.0日早く2.9日となっている。

最も交換日数が長いのはウロストミーで、夏季で4.1日、その他季節で4.5日となっている。ウロストミーは常時湿潤な環境になっているので、皮膚保護剤が厚く発汗する水分を吸収し易いためと思われる。

術後経過年数ではあまり差は認められないが、夏期以外では術後10年以上の人でやや交換日が伸びている傾向が認められる。

性別では女性の方が交換日数は短い傾向がある。

年齢階層別では、明確な傾向は認められないが75歳までは年齢とともに交換日数が短くなり、75歳以上でわずかに伸びる傾向がある。

また、65歳以下の現役世代は季節によって交換日数の差がやや大きい。

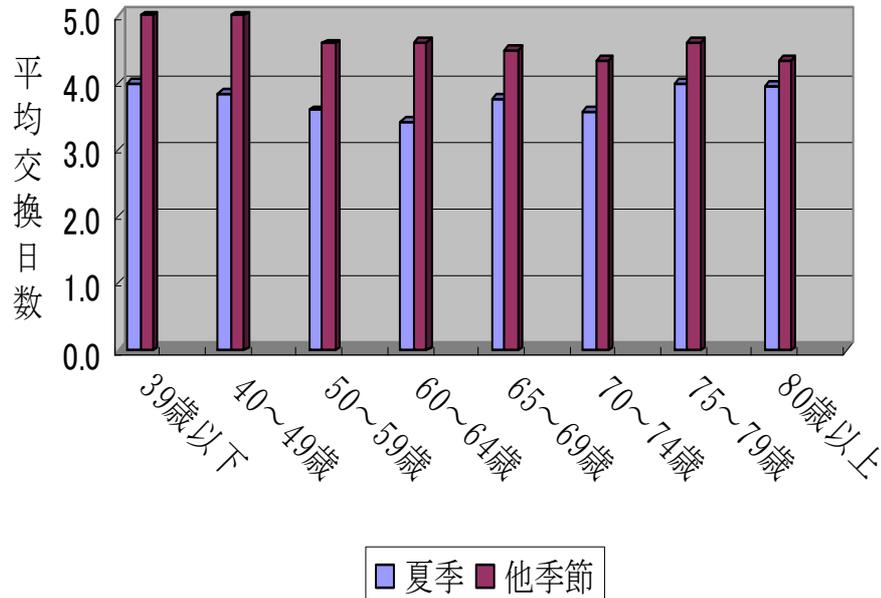
(図1)

表22 面板の平均交換日数

【日】

季 節	夏季	他季節
全 体	3.7	4.5
【ストーマの種類別】		
コ ロ ス ト ミ ー	3.7	4.5
イ レ オ ス ト ミ ー	2.9	3.9
ウ ロ ス ト ミ ー	4.1	4.5
人 肛 ・ 人 膀	3.9	4.5
【術後経過年数】		
3 年 未 満	3.9	4.4
3 ~ 5 年 未 満	3.8	4.3
5 ~ 10 年 未 満	3.6	4.3
10 ~ 20 年 未 満	3.8	4.7
20 年 以 上	3.8	4.6
【性 別】		
男 性	3.9	4.6
女 性	3.3	4.2
【年 齢 層 別】		
3 9 歳 以 下	4.0	5.0
4 0 ~ 4 9 歳	3.8	5.0
5 0 ~ 5 9 歳	3.6	4.6
6 0 ~ 6 4 歳	3.4	4.6
6 5 ~ 6 9 歳	3.8	4.5
7 0 ~ 7 4 歳	3.6	4.3
7 5 ~ 7 9 歳	4.0	4.6
8 0 歳 以 上	3.9	4.3

図1 年齢と面板交換日数



(7) ストーマ用装具の変更

ストーマ用装具は皮膚との相性や取り扱い性など種々の理由によりその使用を変更する機会が多い。退院時と同じストーマ用装具を継続使用している人は45%、同一メーカーで自分に適合する製品を選択した人は30%、メーカーを変えた人が25%となっている。ストーマの種類別では顕著な差は無い。(表23)

表23 退院時のストーマ用装具の使用継続性

【単位：%】

		退院時と同じ	同一メーカーで種類を変えた	メーカーを変えた
全 体		45.1	30.4	24.5
ストーマの種類	コロストミー	44.7	30.3	25.0
	イレオストミー	43.3	32.4	24.3
	ウロストミー	45.6	29.1	25.3
	人肛・人膀	48.2	29.6	22.2

(8) ストーマ用装具に不満で変更した理由

ストーマ用装具を変更した人で、その性能や品質に不満があった理由は、皮膚のかゆみ、剥がれや漏れ、長持ちしない点にある。ストーマの種類別ではイレオストミーが不満を持つ割合が全体的に高く、排泄処理、剥がれや漏れなどに他のストーマの種類と異なる事情があるようで、耐久性や価格などの経済性についても不満が高い。(表24)

表 24 ストーマ用装具製品に不満があった理由(複数回答)

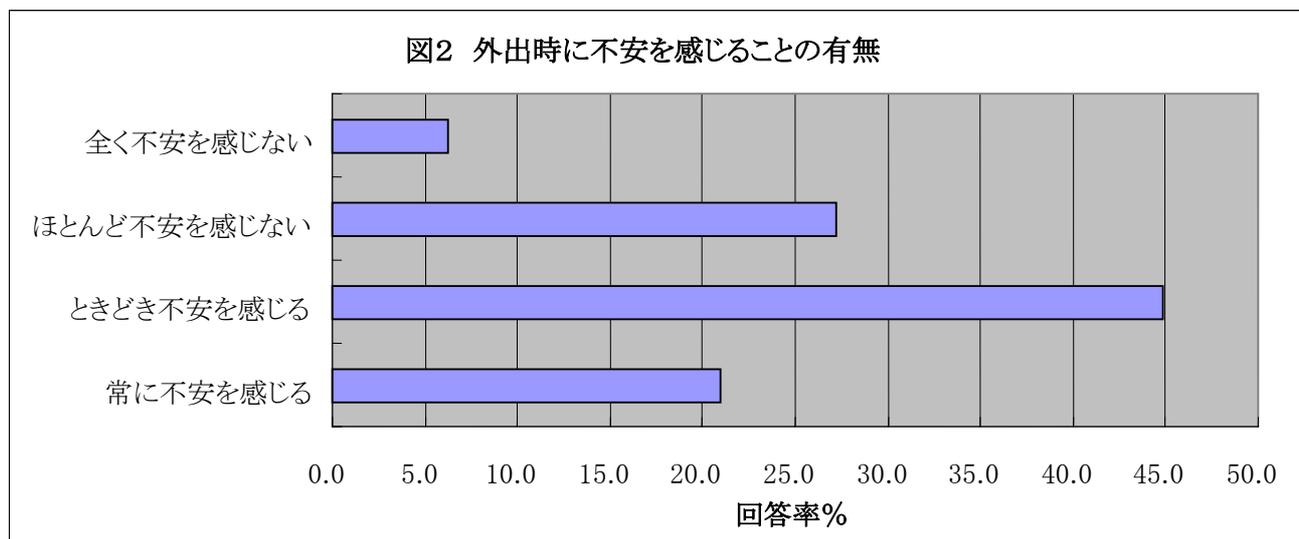
【単位：%】

製品に不満があった理由	皮膚がなかつゆたく	はがれやすかった	長持ちしなかった	頻繁にもれた	値段が高かった	排泄処理に手間がかかった	その他
ストーマの種類							
全体	52.5	44.9	22.0	22.9	4.2	13.6	12.7
コロストミー	50.0	39.7	16.7	16.7	2.6	11.5	11.5
イレオストミー	60.0	80.0	40.0	60.0	20.0	50.0	-
ウロストミー	52.4	52.4	38.1	33.3	-	-	19.0
人肛・人膀	66.7	50.0	16.7	16.7	16.7	33.3	16.7

4. 日常生活

(1) 外出の不安とストーマ用装具

オストメイトが外出時にはストーマ用装具にかかわるトラブルが生じることがあるので、その使用状態に細心の注意を払っている。今回の調査でも何らかの不安を感じている人は、全体の三分の二に達している。(図2)



(2) ストーマケアに関する相談相手

ストーマケアについて相談したい相手は、大別すると医師や看護師(61%)、オストメイトの会や友人(50%)、メーカーや販売店(37%)、家族・友人(11%)の順になっている。医師や看護師は当然であるが、やはりストーマに関する相談はオストメイトやオストミーに関係する人達以外には相談し難いものと考えられる。(表25)

表 25 ストーマケアを相談したい相手(複数回答)

【単位：％】

ストーマケアを 相談したい相手	医師 又は 看護師	家族 や 友人	販売 代理 店	メー カー の 相 談 窓 口	患 者 ・ 同 憂 会 の 仲 間	オ ス ト メ イト の 友 人	相 談 し な い	そ の 他
全 体	61.2	11.4	25.5	13.8	30.6	18.9	5.4	3.0

(3)オストメイトであることの周囲の理解

オストメイトであることを家族に話し理解を得ている人は全体の約 94%に達するが、6%の人が家族の理解が得られないか話をしていない。友人や同僚に対しては三分の二の人が理解を得ているが、7%の人が話をしてても理解が得られないとし、また 26%の人が話をしていない。

国際オストミー協会（IOA）のオストメイト権利憲章には次のような権利宣言をしているが、偏見のない社会の実現に向けて更に努力することが求められる。

「オストメイトは、オストメイトのQOL水準を高く保つために、家族、職域、友人がオストミーを理解し支援できるように必要な情報が提供される権利」

表 26 オストメイトであることの周囲の理解(1)

【単位：％】

		家族に			友人や同僚に		
		理 解 を 得 て い る	理 解 を 得 て い な い が	話 し て い な い	理 解 を 得 て い る	理 解 を 得 て い な い が	話 し て い な い
全 体		93.7	4.7	1.6	66.7	7.3	26.0
ス ト ー マ の 種 類	コロストミー	93.4	4.9	1.7	65.2	8.4	26.4
	イレオストミー	94.8	2.6	2.6	57.9	7.9	34.2
	ウロストミー	94.9	4.1	1.0	75.5	3.1	21.4
	人 肛 ・ 人 膀	92.3	7.7	-	63.0	7.4	29.6
術 後 経 過 年 数	3 年 未 満	95.7	-	4.3	74.0	13.0	13.0
	3 ～ 5 年 未 満	95.7	4.3	-	70.2	6.4	23.4
	5 ～ 10 年 未 満	92.4	4.6	3.0	63.4	8.4	28.2
	10 ～ 20 年 未 満	93.2	5.5	1.3	68.1	8.1	23.8
	20 年 以 上	95.5	3.8	0.7	66.2	4.6	29.2

ストーマの種類別では、ウロストミーの 75%が友人や同僚に理解を得ているが、イレオストミーは 58%が理解を得ているが 34%が話をしていないとしている。

術後経過年数では、術後 5 年未満で友人や同僚の理解を得ている割合が増大しており、最近ではかなり話しやすい環境に変わりつつあるのではと推察される。(表 26)

表 27 オストメイトであることの周囲の理解(2)

		家族に			友人や同僚に		
		理 話 解 し を て 得 て い る る	理 話 解 し を て 得 て い る が い	話 し て い な い	理 話 解 し を て 得 て い る る	理 話 解 し を て 得 て い る が い	話 し て い な い
全 体		93.8	4.7	1.5	66.7	7.3	26.0
性 別	男 性	94.0	4.4	1.6	66.2	8.2	25.6
	女 性	93.2	5.3	1.5	67.8	5.8	26.4
年 齢 階 層	39 歳 以下	100.0	-	-	100.0	-	-
	40 ~ 49 歳	100.0	-	-	77.8	11.1	11.1
	50 ~ 59 歳	91.8	8.2	-	60.8	15.7	23.5
	60 ~ 64 歳	96.2	1.9	1.9	64.8	14.8	20.4
	65 ~ 69 歳	94.7	3.2	2.1	61.7	5.3	33.0
	70 ~ 74 歳	93.8	4.7	1.5	63.0	6.3	30.7
	75 ~ 79 歳	92.1	7.1	0.8	64.5	7.3	28.2
	80 歳 以上	93.8	3.5	2.7	79.3	2.7	18.0
地 域	北 海 道	100.0	-	-	66.7	14.3	19.0
	東 北	90.2	7.8	2.0	64.7	3.9	31.4
	関 東	94.8	4.7	0.5	71.5	7.3	21.2
	中 部	92.3	3.1	4.6	60.3	4.4	35.3
	近 畿	93.5	5.2	1.3	63.1	5.3	31.6
	中 国	92.3	5.8	1.9	66.0	6.0	28.0
	四 国	100.0	-	-	75.0	-	25.0
	九州・沖縄	92.4	3.8	3.8	68.5	11.1	20.4

周囲の理解は、性別の影響は少なく、年齢階層では 49 歳以下では周囲の理解度が高く、50 歳台の発症年齢が多い現役世代が最も低い。60 歳以降では友人や同僚の理解も高くなる。80 歳以上では介護など周囲の援助も必要になってくるので周囲に話しをする機会も増え、高い割合で理解が得られるようである。

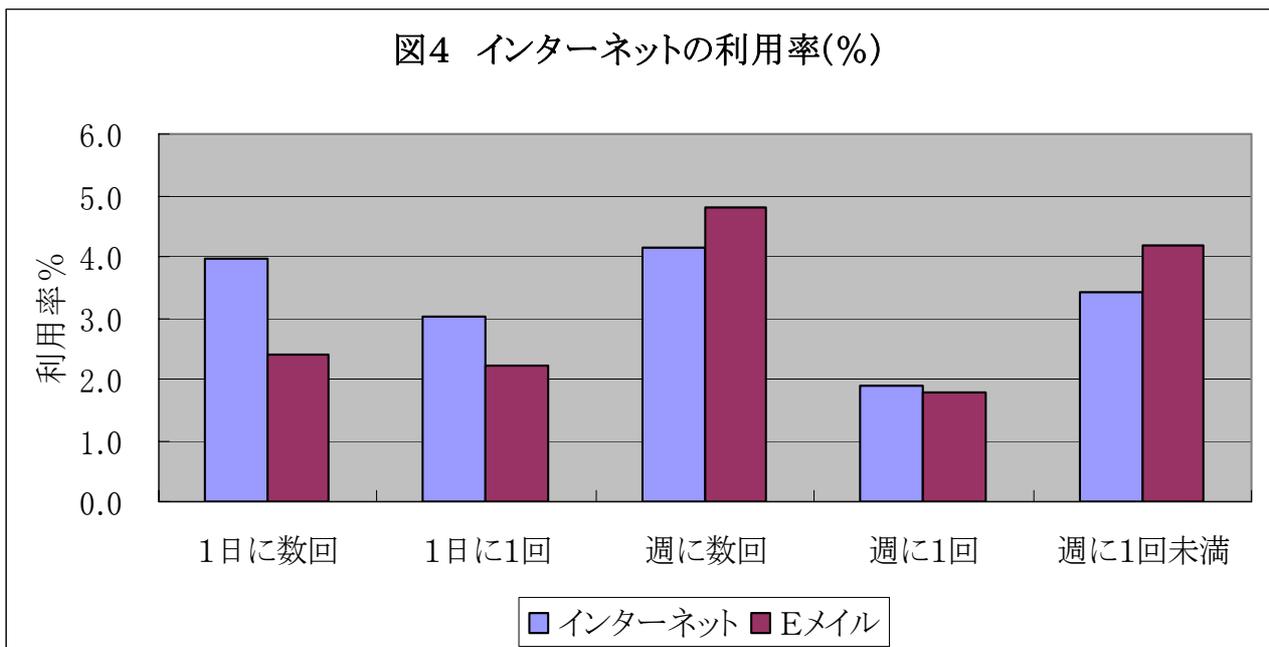
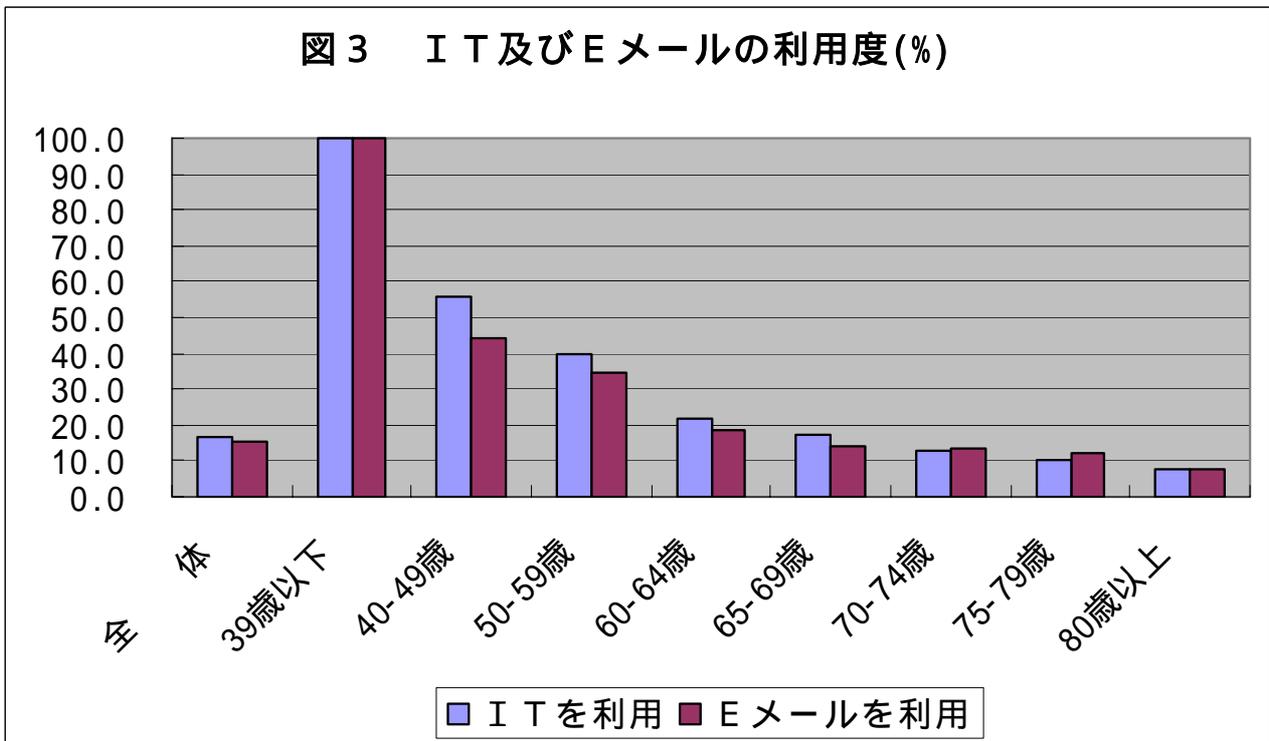
地域別では、東北、中部、中国、九州・沖縄で家族の理解が得られる割合が他の地域よりやや少ない。友人や同僚の理解される割合は四国、関東が高く、中部が低い。中部、近畿、東北では友人や同僚に話をしていない人が多い傾向がある。(表 27)

(4) インターネットの利用

オストメイトの IT 利用率は、高齢化しているため全体では 15 ~ 6% 程度であるが 60 歳以

下の現役世代の利用率は 40%以上になっている。(図 3)

特に 50 歳以下では 55%以上となっている。一方 75 歳以上においても凡そ 10%の人が I T を利用しており、利用回数は週に 1 度以上の人が多い。(図 4)



．考 察

ストーマケアに関する調査は平成 15 年度の第 1 回に次いで今回は第 2 回目である。協会では、この調査とは別に平成 5 年度から 16 年度にかけて 5 回のオストメイトの生活実態基本調査を実施しているため、ここでは、これらの 12 年にわたる調査結果を含めて考察する。

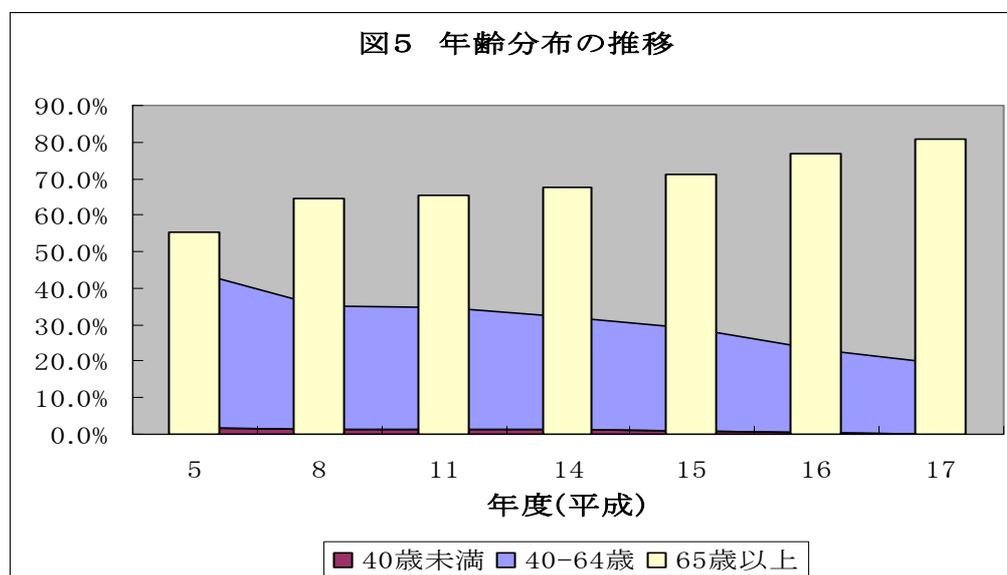
1．オストメイトの高齢化と介護

65 歳以上の会員オストメイトの割合は、平成 5 年の 55% から平成 17 年の 80% に増加している。(図 5) 70 歳以上の年齢階層は平成 15 年度に比べても着実に増加しており、今回の調査では 70 歳台が約 45%、80 歳代が 20% の割合になっている。(表 4)

したがって、高齢で介護を必要とするオストメイトも多く、また今後増加することが容易に推定されるが、介護を必要とするオストメイトの最大の課題はストーマケアとその装具の交換にある。ストーマには、手術によって便や尿を排泄するために腹壁に造設された排泄孔で消化管ストーマと尿路ストーマがあるが、合併症や創感染を防止するためには注意深く衛生的にケアすることが必要となる。

また、ストーマ用装具は面板(フランジ)をストーマ周囲の皮膚に接着し平坦に保った面に、便や尿を受ける袋(パウチ)を取り付けているが、皮膚とフランジの接着面において剥がれによる排泄物の漏れや、湿疹、痒みなどの皮膚障害が生じる可能性が常にあり、ストーマ用装具の選択・装着・交換、皮膚の清拭・洗浄、パウチ内の排泄物処理など注意深い日常的ケアが必要とされている。

統計からも明らかのように、今後高齢化に伴って種々の身体機能の低下によりストーマケアを自分で出来なくなり、介護を受けざるを得なくなるオストメイトが増加する。(図 5)



ここで問題となるのは、ストーマ用装具交換が医師法第 17 条により医療行為と看做され、医師、看護師、家族以外の他人、たとえば友人やホームヘルパーがその行為を行うことが禁じられてきたことである。

ここでいうストーマ用装具交換は、フランジやパウチの交換だけでなくパウチに溜まった排泄物の処理なども含めて解釈されてきたが、平成 17 年 7 月 26 日に出生された厚生労働省医政局長より各都道府県知事への通達(医政発第 0726005 号)によれば、ストーマ用装具のパウチに溜まった排泄物を捨てること(肌に接着しているパウチの取り替えを除く)は医療行為と看做されないとの見解が示された。

したがって、オストメイトの介護は一步前進し、ワンピース型(フレンジとパウチの一体型)の装具では出来ないが、ツーピース型(フレンジとパウチの二品型)の装具を使用することにより排泄物が溜まったパウチのみを交換することが出来るようになったが、後者は前者に比較して2倍程度の経費が要する難点がある。

フレンジの交換は季節、ストーマの種類、年齢、個人の体型や皮膚の状況などによっても異なるが、少なくとも1週間に一度は貼り替えることが必要不可欠である。(表 21,22) この行為は従来通り医師法によって、医師、看護師及び家族以外の人には禁じられているので、在宅のオストメイトの介護は訪問看護師にストーマ用装具交換を依頼することになるが、看護師が初めてストーマケアに遭遇するケースが多いことや介護に要する看護師数の不足が危惧されている。

第5回オストメイト生活実態調査(平成16年度)によると、介護保険を利用した人は75歳以上で14~17%となっており、ストーマ用装具の交換を依頼した人は看護師とホームヘルパーで、その比率は凡そ4:1である。

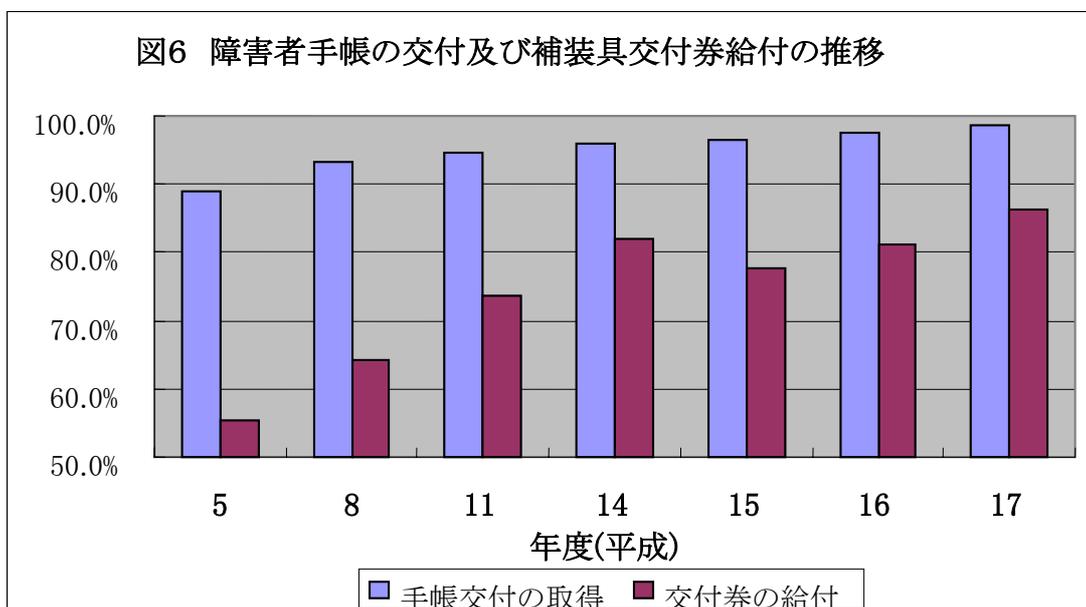
協会会員を対象としたこれらの調査は、重度の介護を必要とし、家族の看護を受けたり、施設に入居しているオストメイトは殆ど含まれていない。このような介護を必要とするオストメイトは相当数存在し、また年々その数は増加するものと考えられるので、訪問看護師だけでは対応できなくなると思われる。

したがって、ストーマケアに関する専門的な研修とそれを行う人の確保が緊急な課題となってくるが、ホームヘルパーの活用を含めストーマケアができる看護師やホームヘルパーの養成が必要である。

ストーマケアやストーマ用装具交換は、日ごろオストメイト自身が行っている行為であり、必ずしも医療行為と思えないことも含んでおり、損傷を受けていないストーマや湿疹など皮膚障害が無い場合は、専門的な研修を受けたホームヘルパーも分担できるよう国が制度設計をすることが望まれる。

2. 障害者認定について

オストメイトの障害者認定は着実に全員認定に近づいている。平成15年度にコロストミーを手術直後に即時認定されるようになり、17年度には98.7%のオストメイトが手帳を取得した。障害の認定を希望せず申請を行っていない人もいるので、協会が国に要望してきた身体障害者手帳の完全交付がほぼ実現されたものと考えられる。(図6)



平成 15 年度には 3 級以上の認定の基準が明確化され上位級への認定の道が開かれたが、障害 4 級を 3 級に認定するように運動を重ねることが必要である。

ストーマ用装具の交付率の向上も協会が長年に亘って啓蒙しているが、平成 5 年度の 55% から 17 年度の 86% に着実に向上してきた。

ストーマ用装具にかかる経費は「身体障害者福祉法」(昭和 24 年法律第 283 号)に基づき「補装具の種目、受託報酬の額等に関する基準」(昭和 48 年 6 月厚生省告示第 171 号)によって、前年の所帯所得にかかる所得税額によって自己負担額を徴収する仕組みになっているが、その自己負担額を国の補助に加えて地方自治体が補助を上乗せしているケースもある。

オストメイトがストーマ用装具にかかる経費については、アンケート結果に基づき推定した。国の施策では 1 ヶ月に要するストーマ用装具基準経費は、コロストミーとイレオストミーは 8,600 円、ウロストミーは 11,300 円としているが、平成 17 年度調査(平成 16 年度調査)では平均推定額でコロストミーは 9,207 円(10,800 円)、イレオストミー 10,263 円(12,700 円)、ウロストミーで 11,887 円(12,370 円)となり、国の基準経費より 1~2 割以上高くなっている。(表 11,12,13)

また、交付券だけでは間に合っていない人が全体で 71.5% に達しているが、交付券だけでは不足する推定平均額は、コロストミーで毎月 3,876 円、イレオストミーで 5,426 円、ウロストミーで 4,210 円、人肛・人膀で 7,104 円となり、パウチを 2 ヶ所以上必要とする人肛・人膀の負担額が大きい。これらの経費は平均値の推定であり、6,000 円以上自己負担を余儀なくされているオストメイトが全体の 23.4% であることを留意し、今後とも費用負担の軽減を要望していかなければならない。

3. オストメイトであることの周囲の理解

オストメイトは、自らストーマを保有していることを家族、同僚、友人などに話をし、特殊な事情の理解を求めることが肝要であるが、一方ではこれらの人々がオストミーの特殊事情を理解できるような情報の提供や支援が公的に得られる環境も必要である。

オストミー憲章(概要)

IOA(国際オストミー協会)は、すべてのオストメイトが満足のいく QOL を実現するために、下記 8 条文が世界のあらゆる国で実施されること権利宣言する

- 第 1 条 手術を行う利点や術後の生活について術前に適切なカウンセリングを受ける権利
- 第 2 条 術後の QOL を高めるためにストーマが適切な位置に、機能的に造設される権利
- 第 3 条 手術後においても専門医の支援やストーマケアを受ける権利
- 第 4 条 オストミー用品について適切かつ公正な情報を得る権利
- 第 5 条 オストミー用品を偏見や制約なしに選択できる権利
- 第 6 条 オストミー協会および協会の提供するサービスや支援に関する情報を得る権利
- 第 7 条 オストメイトの QOL 水準を高く保つために、家族、職域、友人がオストミーを理解し支援できるように必要な情報が提供される権利
- 第 8 条 オストミー手術に関する個人情報 that 慎重かつ機密に扱われる権利

オストメイトの国際的組織である国際オストミー協会では、オストミー憲章の中で世界のあらゆる国がオストミーを理解し支援できるように必要な情報を社会に提供されることを要望している。今回の調査では、家族に対しては殆どのオストメイトが理解を得おり、友人や同僚に3分の2のオストメイトが理解を得ていることがわかった。(表 26,27)

時代とともにオープンに話が出来る環境になりつつあると思われるが、話をしていないオストメイトが4分の1いることは、オストメイト自身の心理上の問題や社会環境上の問題があることを示唆しており今後更に調査を続ける必要がある。

また、話をしても理解が得られないとするオストメイトが10%以下であるが存在することは必要な情報が社会に充分提供されていないことであり、オストメイト対応トイレの普及とともに官民であらゆる機会を捉え情報提供を続けバリアフリーの社会を実現しなければならない。